

市営施設の「指定管理者」を募集します

北秋田市では、次の施設で、指定管理者を募集します。指定を希望される団体等は、期限内に所定の申請書を提出してください。

【全施設共通項目】

指定期間

平成21年4月1日～

平成26年3月31日（5年間）

要件

県内に主たる事務所を有する法人、企業共同体、その他団体であること。

北秋田市大太鼓の館及び周辺施設

施設名

北秋田市大太鼓の館

大太鼓の館付属トイレ

鷹巣休憩施設情報プラザ

所在地 綴子字大堤道下62-1

設置の目的

歴史と伝統ある綴子大太鼓の保存と伝承により、広く文化を高め併せて観光振興を図り地域活性化に資する。

北秋田市営湯の岱温泉

所在地 小森字湯の岱67

設置の目的

温泉を適正に管理し、公共福祉の増進と観光客の利用に供する。

北秋田市セントラル合川

所在地 新田目字大野80-1

設置の目的

中小企業に働く労働者の福祉の向上を図り、もって雇用の促進と職業の安定に資するとともに、地域工業の発展を図る。

阿仁異人館及び郷土文化保存伝承館

施設名

北秋田市阿仁異人館

北秋田市郷土文化保存伝承館

所在地 阿仁銀山字下新町41-22

設置の目的

郷土の歴史、文化の認識を深め、教育文化の発展と観光振興に資する。

《申請の手続き》

申請書の交付

10月27日(月)まで希望者に交付します。

申請書の提出期限 10月27日(月)

施設説明会を開催いたします。希望する方は9月25日(木)までに商

工観光課へお知らせください。

問合せ 市商工観光課

☎ 62-6639



西木さん、浅利さんらがアピール宣言を行った「なんとがしねばね!秋田内陸線シンポジウム」

なんとがしねばね!

秋田内陸線シンポジウム

秋田を応援する首都圏文化人会議主催の「なんとがしねばね!秋田内陸線シンポジウム」が9月5日、阿仁ふるさと文化センターで開催され、内陸線の存続を訴え緊急アピール宣言を行ったほか同線への思いや乗車促進のアイデアを語り合いました。

同会議は、今年6月に同線の存続について9月に結論が出される見通しになったことから、ジャーナリストの橋本五郎さん、作家の西木正明さん、女優の浅利香津代さんの三人が世話役となり存続を支援するため結成されました。賛同者には、明石康さん内館牧子さんから首都圏で活躍す

る文化人33名が名を連ねています。

この日は、沿線住民や関係者約250名が出席。西木正明さんと浅利香津代さんが「なんとがしねばね!秋田内陸線緊急アピール宣言文を読み上げ、「週末文化人まるごと列車」を11月から随時実施する「劇団四季」こころの劇場」を北秋田市で来年開催 首都圏の県出身者への、秋田内陸線ふるさと乗車券」の購入運動 秋田内陸線の「愛称」の公募など具体的な行動計画が発表されました。

その後、西木さん、浅利さん、俳優の山谷初男さんをパネリストにシンポジウムが行われ、沿線は、四季折々の自然と昔ながらの生活文化が息づいていて衣食住すべてが魅力。人間の心のふるさとを残してほしい、無くすことは簡単だが無くしてからその存在価値に気がつくのでは遅い、「地元の乗車には限界がある。特色あるサービスをして外部からの誘客を」などの意見が交わされたほか利用促進のアイデアもだされました。

今回のシンポジウムを、なんとがしねばね」の第一歩として、今後PR活動や様々な試みを展開し存続を支援していくことを宣言しました。

協力に関する協定調印式



協定書にサインしたあと、伊藤社長と握手する岸部市長(市役所会議室)

災害時の物資提供等で協定

(株)伊徳と北秋田市が災害協定に調印

株式会社伊徳、伊藤碩彦代表取締役社長、本社・大館市)と北秋田市との災害時の協力に関する協定の調印式が9月2日、市役所で行われ、地震等の大規模災害が発生した際に伊徳が避難場所や応急生活物資を優先的に供給することを主な内容とする協定書を交わしました。

北秋田市は、昨年9月集中豪雨被害の教訓から、地震や風水害時の生活援助物資やライフラインの早期確保、復旧を図るために民間企業の協力が極めて有効であることを再認識、19年度策定した北秋田地域防災計画にも民間企業との相互協力を規定し

ております。

調印式には、市側から岸部市長、島山総務部長らが出席。また伊徳側は、伊藤社長ほか、桜田常務取締役管理本部長らが出席しました。

調印後、岸部市長は、「災害はいつ起きるかわからない。市では昨年の豪雨災害を教訓に、災害に強いまちづくりに取り組んでいる。協定を結んだことで、市民の安心を確保でき大変心強い」とあいさつ。

また伊徳の伊藤社長は、「地元企業として災害時のみならず平素から地域の方々にはお役に立ちたいと考えている。当社には、おにぎりだと最大で1時間に4000個の製造が可能なので、ナポリ工場があり、昨年の災害では、大館市や鹿角市からの緊急の要請にも応えることができた」と支援体制にも自信をのぞかせ、岸部市長と握手を交わしました。

(株)伊徳ではこのほか、食料品、生活必需品などを在庫として大量に保有していることから、当地域の災害発生時に優先的に生活物資の提供の協力が得られることとなり、避難した住民への物資供給にあたり大きな力になるものと期待されます。

敬老 敬祝 老いつまでもお元気で



市の敬老式が、各地区ごとに開催され、祝芸や演芸などで長寿を祝いました。

今年市の対象者(75歳以上・8月1日現在)は、7671名で、鷹巣地区3525名、合川地区1520名、吉地区1531名、阿仁地区1095名となっております。

このうち、9月2日、合川体育館で行われた合川地区敬老式では、佐藤副市長が「今日があるのもこれまでのみなさまの長年の労苦があつてこそ。昨年の国体につき、全国植樹祭が開催され、これから地域の発展が期待される。みなさまのご健康とご長寿をお祈りします」と祝辞を述べました。

参加者を代表して、今年から敬老の仲間入りをした工藤安雄さん(下杉)が、敬老の仲間入りができてうれしい。健康に留意し、これからも微力ではあるが地域に恩返しをしていきたいとお礼の言葉を述べました。

また、6日に森吉地区、9日に阿仁地区で行われた敬老式でも、式典後、演舞や小学生による敬老による作文発表などが披露され、参加者の皆さんは記念の一日を楽しみ、健康と長寿を誓い合いました。



参加者を代表し、「地域に恩返しをしたい」とあいさつする工藤安雄さん(合川会場)

演舞や小学生による作文発表など様々な余興で楽しみました(森吉会場)